

多摩川トンネル浮島ランプ構造勉強会

設 立 趣 意 書

国道３５７号多摩川トンネルは、高速湾岸線の多摩川トンネルと並走する水底トンネルであり、浮島ランプ施工箇所は深さ４０ｍを超える軟弱地盤の埋立地であることから、既設構造物に影響を及ぼさない慎重な施工が求められている。

現都市計画案は、高速湾岸線の浮島ＪＣＴ直下に分岐合流部を構築し、川崎都市計画道路に接続する計画であるが、事業化後の調査において、軟弱地盤の深さや多量の大きなコンクリート殻等を確認したことから、施工を進めるにあたり、ランプ形式の検討・調整を行う必要が生じた。

このため、検討の調整にあたっては、周辺地域の道路ネットワーク状況を踏まえたランプ形式の最適案を立案するため、構造及び施工・交通処理に関して学識経験者等の知見に基づく高度な技術的判断が必要である。

以上のことから、国道３５７号多摩川トンネルの早期整備を実現すべく、浮島ランプ構造の検討を行い、関係者協議を踏まえた最適案のとりまとめを行うことを目的として「多摩川トンネル浮島ランプ構造勉強会」を設置するものである。